

「大うつ病および双極性障害を検出する方法」に関する 特許取得のお知らせ

2022年6月28日

株式会社DNAチップ研究所

【概要】

株式会社DNAチップ研究所（代表取締役社長：的場 亮）は、ヒトの末梢血の遺伝子発現情報を用いて大うつ病^{*1} および双極性障害^{*2} を検出する方法に関する国内特許を取得しましたので、お知らせいたします。なお、本特許は国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センターとの共同出願です。

発明の名称： 気分障害を検出する方法

特許番号： 特許第 7084580 号

特許登録日： 2022年6月7日

我が国のうつ病の患者数は近年増加の一途をたどっており、うつ病を含む気分障害の患者数は約 127 万人と報告されています（平成 29 年 厚生労働省「患者調査」）。さらに治療を受けていない患者も含めるとその数は 2～3 倍にのぼると想定されています。自殺とうつ病による休業・失業による社会的損失額は 1 年間で約 2 兆 7 千億円に達する（2009 年 厚生労働省と国立社会保障・人口問題研究所の調査）と見込まれており、うつ病は解決すべき重要な社会問題の一つといえます。

うつ病の診断は問診に基づいて行われますが、主観的な要素が大きいため、その正確な診断は医師にとって容易ではありません。このため、医師による診断を補助するような客観的な検査手法の開発が望まれています。

株式会社DNAチップ研究所は、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第三部（功刀 浩 客員研究員）および精神保健研究所行動医学研究部（堀弘明 認知機能研究室長）との共同研究により、血液中の特定の遺伝子の発現量を測定することで大うつ病および双極性障害を検出する方法を開発し^{*3}、このたび国内特許を取得しました。当社では今後、本特許を活用したうつ病検査の性能評価を進めて参ります。なお、本年度の当社業績には影響はありませんが、今後開示すべき事象が発生または判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

【用語解説および文献】

*1 : 大うつ病

2 週間以上継続する抑うつ状態、興味・喜びの喪失、食欲・体重の増減、不眠、疲労感、思考力・集中力の低下、自殺企図等を主症状とする精神疾患。「大うつ病性障害」とも呼ばれる。

*2 : 双極性障害

気分が高まり活動的になる”躁状態”と気分が落ち込む”うつ状態”を繰り返す精神疾患。「躁うつ病」とも呼ばれる。20歳前後の若年に発症しやすいという特徴がある。

*3 : 本研究開発に関する学術文献 :

Hori H, Nakamura S, Yoshida F, et al. Integrated profiling of phenotype and blood transcriptome for stress vulnerability and depression. *J Psychiatr Res.* 2018;104:202-210. doi:10.1016/j.jpsychires.2018.08.010

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社DNAチップ研究所

住所 : 東京都港区海岸 1-15-1 スズエベイディアム 5階

電話番号 : 03-5777-1700

FAX 番号 : 03-5777-1702

Email : info@dna-chip.co.jp

URL : <https://www.dna-chip.co.jp/>

以上